

挨拶を大切に

可児市教育委員会 教育委員 伊藤 小百合

今までに学校内のあいさつ運動、登校時の交通安全当番や自治会の立哨に参加する機会がありました。

校内の玄関口に立って声かけをすると、多くの子どもたちが声を出して「おはようございます。」と返してくれたり、頭を下げてくださいたりします。

しかし、学校の外で同じように声かけをすると、挨拶をする子どもたちが少ないと常々感じています。もちろん、元気よく自発的に挨拶しながら通っていく子どももいます。

保護者同士で「挨拶をする子どもが少ない。」という話題が出たこともあります。不審者がみられることもあるせいか、知らない人には話しかけないというのは、自然なことかもしれません。

しかし、顔見知りの人にも挨拶をしないのは、どうなのでしょう。年代によっては、恥ずかしさもあり、そういう場合は会釈でも十分だと思います。

「子どもは親の背中を見て育つ」といいますが、家庭では挨拶ができていますでしょうか？今一度、思い返してみてください。子どもの育成には、身近な大人である親の影響が大きく関わってきます。時には挨拶自体を教えることは必要ですが、普段の生活の中で、習慣として自然にできることが大切だと感じています。

挨拶はコミュニケーションの基本といえます。お互いが心を開いて、人間関係を築いていく第一歩となるものなのです。

私たち大人が子どもたちの手本となれるよう、日頃の生活を時々思い返していく必要があるのではないのでしょうか。

私の夢を応援してくれた人（恩師）

川辺町教育委員会 教育委員 大脇 香美

昨年、岐阜県教育委員会連合会研究総会に参加させていただきました。横山会長のごあいさつの中で、教育委員徒然日記を楽しみにされている多くの方は、執筆依頼を受けると恩師についての内容を書いておられるとお聞きし、私もこの機会に私を応援して下さる人々（恩師）についてお伝えしようと考え、執筆を引き受けた次第です。

私の恩師とは、人生の半分以上を学び続けている植物療法の先生と共に学ぶ仲間です。

今から十年ほど前、自ら勉学に励む姿で、我が子が立ち向かう高校受験の後押しができればと考え、これをきっかけに以前より持っていた夢、植物療法の勉強を始めました。

植物療法とは、植物の力を利用して本来人間が持つ自然治癒力に働きかけ病気の予防やケアをするもので、主にアロマ・ハーブ等を活用します。

この学びは、知れば知るほど、我が子のことはさておき、のめり込んでいく自分が居ました。どの先生も多彩な指導を展開されるため、お店を持ち、その良さを地域に広げたいという私の夢は膨らむばかりです。コロナ禍とはいえ、多くの仲間と連絡を取り合い繋がることで、随分励まされたり、勇気づけられたりしながら、沢山の力をもらいました。

応援して下さる人（恩師）たちとの出会いは、植物の力を多くの人に伝えていきたいという願いを強くさせ、ようやくお店を持つまでに至りました。今があるのは、ずっと応援して下さった多くの先生や仲間の後押しのお陰だと感謝しています。

そして、私の夢が現実となった今、地域の方々や子どもたちに、植物の力を伝えると共に、癒しの場を提供出来たらと考えます。

併せて、「DREAMS COME TRUE」信念を貫いていれば、夢は叶う！ということも、地元の子どもたちに伝えていきたいと思います。